

ちよつとそこまで

わがまち散歩

道すがら、心通わす人がいる
古里の温もりに包まれながら
あちらこちら、わがまち散歩

町の南方、シンボリックな山・飯田山
のふところにある飯田・下鶴・砥川地区。
広がる青田がまぶしく映ります。この
地域の昔ながらの習わしや伝統行事な
ど、訪ね歩いてみました。



町のシンボリックな山、飯田山



「権現さん」と親しまれている神社の鳥居は、地区の人たちの手作り



左から木村孝一さん、高木敬司さん、山本義幸さん、上田勝男さん、田口幸明さん

で作りました」と山本義幸さん(61)が教えてくれました。

2つの山に伝わる民話「やまのせいくらべ」

「白山神社」から100mほど上ると、標高431mの飯田山の頂上に着きます。ここからの眺めは圧巻。熊本市内が一望でき、はるか遠くに長崎県島原市の普賢岳も見えます。飯田山のちょうど真向かいに相対するのが、熊本市内西部に位置する標高665mの金峰山。この2つの山には「やまのせいくらべ」という民話が残されています。

昔むかし、飯田山が金峰山に背比べを挑みました。金峰山が「おれに

祈りの聖地「飯田山常楽寺」と「白山神社」

雨に洗われ、しっとり潤いを含んだ「飯田山常楽寺」の山門の石段。通称「乱れ石」といわれるこの石段は、「乱れ積法」と呼ばれる珍しい積み方がなされています。

飯田山の山腹にある「飯田山常楽寺」は、平安末期に建立されたと伝わる天台宗の寺。最盛時には36の僧坊があり、300人近くの僧侶が修行に励んでいたといわれています。仁王像が2体左右に鎮座する山門から望む本堂は風格漂うたたずまいで、境内は厳かな雰囲気包ま



山門から見える本堂。飯田山常楽寺

山門の左右には、それぞれ1体の仁王像が立っています

